

ピィあじ

第1333号
2008. 1
発行

茨木市安地区
に「戦争と平和
を学ぶ公園」を
茨木市民の会

『ピィあじ』は地域の機争遺跡を掘り起こし保存することを主な目的とする

会費制の市民団体です。連絡先 追手門学院大学人間学部 矢谷研究室

〒567-0008 茨木市西安威二の十五 ※加072(641) 9561

帯・202人が暮らす。80%が在日朝鮮人である。

1935年〜37年の飛行場建設工事に従事した700人の朝鮮人労働者が定住したのが始まりで、

その後の拡張工事(1940〜44)

4)に伴い、強制動員された慶尚南道出身者を中心とした朝鮮人1000名が飯場を建てて過酷な労働に従事した。

伊丹・中村地区 「マイルドブーク」に

新春の一月十三日(日)、コリアン

マインリテイル研究会と在日朝鮮人運動史研究会関西西部会の共催による

「マイルドブーク」伊丹空港建設と中村地区「移転問題を通して」

が行われた。

あとわずかの期間を残して、中村地区が消えるということもあり、現

地を見学する最後の機会というこ

ともあって、60名以上の参加者が駆け付けた。その中には前回の「ピ

ィあじ」の会報で紹介した京都府宇治市ウトロ地区からも10数名

の参加者も含まれていた。

(一) 中村地区とは

伊丹市中村地区は大阪空港の北

西(B滑走路の北端付近)にあり、

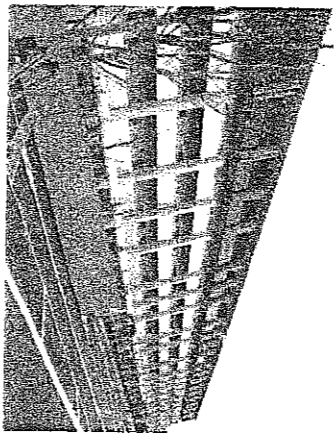
空港と猪名川に挟まれた約、3.4

ヘクタール(甲子園より少し小さい)で、ほとんどが国土交通省の管轄する国有地。現在はそこに95世

(※住民が移転する市営住宅)

戦後、飛行場は米軍管理下に置かれたが、飯場はそのまま残った。

1970年の大阪万博のため、滑走路が新たに1本作られたが、中村地区はこの滑走路のすぐ近くに食い込むように残った。国は不法占拠とみなし、長い間、上下水道、ガスなどの工事をしてこなかった。200



1年にやると、国と自治会が集団移転に合意して、2007年に地区の南側に市営住宅が完成した。今年3

月までに住民は住宅に移転する。

(二) 行政との交渉

FWに先立って、新しくできた集会所で中村地区についての詳しい

説明があった。最初に、去年7月にNHK神戸放送局が作成したドキ

ュメンタリ「朝鮮半島から動員された最後の夏」が放映された。関西学院

大学の三浦教授が、中村地区の歴史を後世に伝えるために地区内の開

き取りをしている姿が印象深かった。

続いて自治会長さんから、移転に至るまでの粘り強い行政との交渉

や、到達点などの説明があった。それによると、中村地区は不法占拠状態

というところで、行政から長い間対策を受けられず、電話が引かれたのが、1976年、上水道共同管が1

974年、下水道は今もなし、都市ガスもなし、という中で、国土交通

省は「保障なしで出て行ってくれ」ということであった。地元自治会は

これまで二百回以上の交渉で、20

01年集団移転に合意することができた。「航空機騒音防止法」によ

る移転補償という位置づけで具体的な移転の作業に入った。当時の1

50戸のうち3分の1が他地区に移り、50戸が去年2月完成した第

1期市営養津住宅に入り、残りの4

5戸が2期の住宅にはいるという。

家賃は7年の傾斜家賃として決められている。その他、住宅以外に地区内にある、土木関連やリサイクル

業者、54の企業の事業者用地も確保されて、現在移転が進行している。

最後に自治会長さんが、長いこれまでの運動の年月をふりかえりながら、結果的にうまくいった理由のひとつとして「国土交通省の担当の行

政マンが、粘り強く、知恵を働かしながら、本気になってとりくんできたから、できた」と語られたことが印象的だった。

(三) 消える中村地区を歩く

説明の後で、自治会副会長の案内でFWを行った。60年以上もこの地に住みつづけた副会長から、町の歴史や変化の説明と受けながら案内していただいた。すでに地区の住民の移転が進んで、空地や更地や空き家が多かったが、昔の様子が垣間見えることができた。大阪空港の滑走路からわずか120mしか、離れて

いない中村地区の端に来て、参加者はその距離の近さに驚きをおくせなかつた。また、猪名川の堤防上で、「昔、中村の住民はこの川の砂利を採取してそれを売って生活していた」と聞いてその労働の厳しさを実感した。



(※滑走路から120mしか離れていない中村地区の端)

FWに参加したウトロの代表から、「中村地区だけのメリットではなく周辺地区にもメリットのある事業を行うことが大切だ。猪名川の水害対策としての遊水地の設定などを参考にして、ウトロでも地域のコミ

ュニティセンタリなどを考えたい。」と謝意が述べられ、有意義だったFWを終えた。